

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 6. No. 20 2004 年 12 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cnar.jp Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■ NEC エンジニアリング、エコーキャンセラ付ハンズフリーマイクスピーカーを発売



VoicePoint mini

NEC エンジニアリング(東京都港区)は、USB 接続卓上型エコーキャンセラ付ハンズフリーマイクスピーカー「VoicePoint mini(ボイスポイント ミニ)」を商品化。住友商事(東京都中央区)を国内総代理店とし、住友商事マシネックス(東京都中央区)を総販売元として、12 月 9 日より販売を開始した。

PCのUSBポートに接続することにより(電源は別)、PCでのウェブ会議やソフトフォン、PC用インターネット電話などでの通話がハンズフリーで行える。

パソコンを利用したウェブ会議やソフトフォンの場合、ハウリングを防止するためにヘッドフォンとマイクが一体になったヘッドセットを使用することが一般的だが、頭部や耳を圧迫するため長時間の使用に伴う疲労感や不快感があり、また、1台のPCから複数のメンバーが参加することができないなどの課題があった。

「この VoicePoint mini は、こういった(上記)課題を解決するために、NEC が持つエコーキャンセラ技術を使い、指向性のあるマイクと高性能スピーカーを搭載して開発

した。数メートル範囲の声は十分拾えるため、パソコン1台の前に4-5人居ても問題なくウェブ会議に参加できる。また、エコーキャンセラを実現する技術は技術的に非常に難しく、世界でもその技術を持っているところは数えるくらいしかない。」(NEC エンジニアリング)

製品の主な特長は、(1)卓上型のマイクスピーカー(モノラル出力)一体型であるため、場所を取らず、また配線はPCとの接続用のUSBケーブル(A-B型 2m 同梱)と電源用ケーブル(同梱)のみ、前面には、マイク On/Off、スピーカーボリューム、ヘッドセット用の入出力端子がある、(2)Windows の標準ドライバーで動作するため専用ドライバーの組み込みが不要で、USB ポートに接続するだけでヘッドセットの代用品として使用できる。(3)Audio 入出力コネクタ(RCA)を有しており、Audio 入出力端子を有するテレビ電話等と接続が可能、(4)エコーキャンセラ技術による音声帯域 7khz の高音質通話が可能。

重量: 1.1kg、外形: 約 120mm(W) x 200mm(D) x 204mm(H)。

価格はオープンプライスで、年間1万台の出荷を見込む。NEC エンジニアリングと住友商事では、この VoicePoint mini を、パソコンを利用したウェブ会議を導入済みの企業を中心に販売を行っていくほか、インターネットを利用した語学学習ソリューションを提供する事業者などにも提案活動を行っていく。

■Microsoft Office Live Communication Server 2005 の日本語版1月からリリース

マイクロソフト(東京都渋谷区)は、企業向けのインスタントメッセージング及びプレゼンス製品である Microsoft Office Live Communication Server 2005 の日本語版をパッケージ及びボリュームライセンスプログラムで販売を開始する。ボリュームライセンスプログラムは、1月2日から、パッケージ製品は、1月21日から。同製品は、業界標準の SIP と SIMPLE に基づくエンタープライズリアルタイムコラボレーシ

オンプラットフォーム。

特長などについては、(1)異なる複数のドメインに属する組織間においてプレゼンス共有とIMがリアルタイムで共有可能、MSN、AOL、YahooといったパブリックIMネットワークと透過的なプレゼンス情報の交換とIMを共有することができる。(2)ユーザーは自宅や出張先などから、企業ネットワークの外からでもプレゼンス機能やIM機能を利用することができる。(3)大幅な性能強化により、1台のサーバーあたり最大15,000のIMユーザーを収容でき、エンタープライズ規模の運用にもスケーラブルに対応が可能。(4)Microsoft SQL Server を使用した先進的な階層型アーキテクチャー。(5)複数のサーバーを連動させることにより、最大数十万ユーザーをサポートできる。

(CNAリポート・ジャパン Vol.6 No. 17 2004年10月31日)

■テリロジー、最大 200 拠点まで対応したPCビデオ会議サービスを開始

テリロジー(東京都千代田区)は、月額固定のインターネットPCビデオ会議サービス「VidiTel ジャパンサービス」を開始。

PC画面上では、参加者の顔などが表示されるコミュニケーションウィンドウと、登録メンバーなどのプレゼンス情報がわかるコンタクトウィンドウの2つのウィンドウが表示される。

特長としては、(1)PC上のマイクロソフトオフィスやエクスペローラーなどを共有することができる、(2)最大200拠点までの同時接続会議をサポート。(3)セキュリティは、ウェブブラウザ標準のSSLをサポート。(4)コンタクトリストに登録されたメンバーの状態がわかるプレゼンス機能。(5)帯域制御機能(PCのスペックと使用可能帯域の検知によるもの、クライアントの固定設定によるもの)、(6)リモートオーディオ設定機能。(7)誰が話しているかわかるAuto機能など、また今後予定されている機能として、ゲストアカウント機能、つまり VidiTel ジャパンサービスに契約していない人も会議に参加させることができる機能、そして、2005年にサポート予定の会議セッションの録画と再生機能などが予定されている。

月額費用は、1端末あたり3,500円(税別)で最低10ユーザーからの契約となる。ボリュームディスカウントの適用と、個別対応により最大2000ユーザーまで参加できる会議も行える。

■ブイキューブブロードコミュニケーション、携帯テレビ電話機能を使って参加できるウェブ会議システム

ブイキューブブロードコミュニケーション(東京都目黒区)は、携帯テレビ電話が参加できるウェブ会議システム「nice to meet you」の新バージョンを2004年12月1日より提供する。

同社は、2003年7月からウェブ会議のASPサービスを提供してきたが、これまでに150件の導入事例がある。今回の新バージョンの特長としては、(1)携帯テレビ電話からも会議に参加が可能、(2)すべての通信がSSLに対応、通信セキュリティをさらに強化、(3)ホワイトボードにアップロードできるファイルとしてワードファイル、エクセルファイルを追加、(4)ログインメンバーのPC画面を他のメンバーが共有するデスクトップ共有機能、(5)メンバーのプレゼンスをいつでも確認できるメッセージ機能、などがある。(4)と(5)はオプション。

また、料金プランを12月1日より改定し、利用時間等により3プラン(Lite、Basic、Professional)があり、初期費用は一律29,000円(税抜き)、月額基本料は9,900円(120分、超過時間は、35円/分)から79,900円(無制限)。料金は、会議室1室あたりの利用料金(同時接続最大10カ所。)

-----<AD>-----



<広告> MeetingPlaza + Qcam = Web会議 NTTアイティ
 ビジネスの速度と社内コミュニケーションを支えるWeb会議には最適な製品を選びたいもの。NTTアイティのMeetingPlazaとロジケールのQcamなら、確かな品質と実績で共にシェアNo.1を獲得。<MeetingPlaza -

2004富士キメラ総研調べ、Qcam - 2003 BCN 調べ>Web会議の導入をお考えなら、NTT アイティとロジケールにお任せください。

「MeetingPlaza + Qcam クリスマスキャンペーン 2004」
<http://qcam.meetingplaza.com/>

■米オラクル社、Oracle Collaboration Suite 10gを発表

米オラクル社は、リアルタイムコラボレーションとコンテン

ツマネージメントを統合したソフトウェア「Oracle Collaboration Suite 10g」を発表。Oracle Collaboration Suite は、コンテンツマネージメント、ウェブ会議、電子メール、カレンダーを統合、Oracle データベース機能により、必要な情報を必要な時に瞬時に取り出し活用することができる。Oracle Collaboration Suite 10g については、日本での対応は未定だが、Oracle Collaboration Suite については現在日本で販売中。

【編集長橋本のコメント】

今月 12 月上旬にサンフランシスコで開催された Oracle Openworld での CEO Larry Ellison 氏の基調講演で、「オラクルのコラボレーションスイートはすでにデータベースプラットフォーム上に構築された製品だが、マイクロソフトも IBM もそれぞれコラボレーションソフトを提供しているが、現在は対応していない。しかし、それらの次世代はそれぞれのデータベースプラットフォーム上に構築された製品になると両社がそれぞれ言っている。」と述べている。

ちなみに、前述のニュースで、マイクロソフトは、Microsoft Office Live Communication Server 2005 にて、Microsoft SQL Server 階層型アーキテクチャー発表しているが、Microsoft Office Live Communication Server 2005 も、Larry Ellison 氏の言うところの、“データベースプラットフォーム上に構築された製品”ということになると思われる。

いずれにしても、Larry Ellison 氏の言葉は、今後のコラボレーション製品（ウェブ会議など）は、“データベース”ベースド（ベースにしたもの）のものへシフトしていくとの見方を示したものの。

ERPデータ、CRMデータ、コラボレーションデータ、それぞれ言葉は違えども、データ(bits and byte)の観点からみればそれらは全て同じようなものなのでそれらを一元的にデータベースで管理できれば、必要なデータを瞬時にリレーショナルに引っ張りだすことができるようになって、企業内データを効率よく管理し活用ができる。（オラクル、Oracle Collaboration Suite リリース：CNAリポート・ジャパン Vol.5 No. 22 2003 年 12 月 31 日）

■米 Glowpoint 社、合意不履行で米 Gores Technologies 社に対して訴訟を起こす

IPテレビ会議サービスをグローバルで展開する、米 Glowpoint 社が、米 Gores Technologies 社を連邦裁判所に訴え出た。訴えた理由は、米 Gores Technologies 社が、最近多地点接続サービス会社 V-Span 社を買収した件。

米 Gores Technologies 社は、米 Wire One Technologies 社からテレビ会議販売部門を買収したが、その際に、米 Gores Technologies 社が買収から3年間特定の会議関連の企業を買収しないという約束をしていた。

V-Span 社はその企業リストに掲載されていた企業。米 Gores Technologies 社が合意を破ったという形だ。（CNAリポート・ジャパン Vol.6 No. 16 2004 年 10 月 15 日）（CNARリポート・ジャパン Vol.5 No. 16 2003 年 9 月 30 日）

ショートニュース

◆ストリーミングサーバー等を開発する米 StarBak 社が、IBM のコンサルティング・サービス事業部門 IBM Global Services と戦略的提携。同 IBM 事業部門にて、StarBak 製品をデジタルメディアプロダクトスイート製品としてワールドワイドに販売する。

◆NTT ドコモは、これまでイギリス、香港、シンガポールとの間で提供しているFOMAによる国際テレビ電話の接続先地域をオーストラリアへ拡大。ドコモと同じ W-CDMA 方式で第三世代移動通信サービスを展開している Hutchison 3G Australia 社との間で国際テレビ電話接続を行うことによって、日本からFOMAでオーストラリアへ Hutchison 社の契約者とテレビ電話ができるようになる。また、シンガポールとの国際テレビ電話についても、シングテル社に加え、StarHub Mobile 社との国際テレビ電話接続も行う。

◆ポリコム音声会議システムが、米調査会社 Frost アンド サリバン社の「2004 Product Line Strategy leadership Award」を受賞した。今回の受賞では、ポリコムがユーザーニーズや製品需要に応える最適な製品を提供しているだけでなく、市場が求める機能と価格帯の製品を豊富にそろえている点が高く評価された。

◆ゼッタテクノロジー（東京都千代田区）は、「ネットプレゼンター Pro 議長コンソール」を発表した。議長コンソールから会議の準備から終了まで、会議に参加しているPCを全て一元管理することが可能。機能としては、会議室レイアウト

ト、配席ネームプレート表示、一括電源管理、画面転送指示、会議資料の配付・回収、アンケート・採決など多彩な機能がある。ネットプレゼンターPro は画面転送ソフトで、テレビ会議システムとの併用などを想定している。

◆伊アエスラ社、テレビ会議運用管理システム「AeUMS」バージョン 1.3 をリリース。発信着信コール履歴管理の強化、パーソナライズされたマップ上にテレビ会議端末の場所を表示したりすることができる機能を追加。AeUMS は、アエスラのテレビ会議端末だけでなくタンバーク社、ポリコム社など他社の端末も管理できる。



AeUMS 管理画面

◆プレミアコンファレンシング(東京都江東区)の米親会社である、Ptek ホールディングス社は、社名変更を発表。2005年1月3日からPremiere Global Services社となる。

◆ラドビジョン社は、同社のテレビ会議ネットワーク運用システムである、「iVIEW」のバージョン 2.1 がソニーのPCS-1のテレビ会議端末をサポートしたと発表。今後は、PCS-TL50、PCS-G70なども2005年第一四半期にはサポートする計画。

◆米Centraの取締役会長であるLeon Navickas氏の最近の東京でのCentra Summit Tokyoで、今月中にCentra7の次のバージョンのシステムと、セールス向けに最適化されたウェブコラボレーションシステムを発表、来年早々出荷を開始すると講演の中で発表。詳細は別途同社からのプレス発表を待つ必要がある。

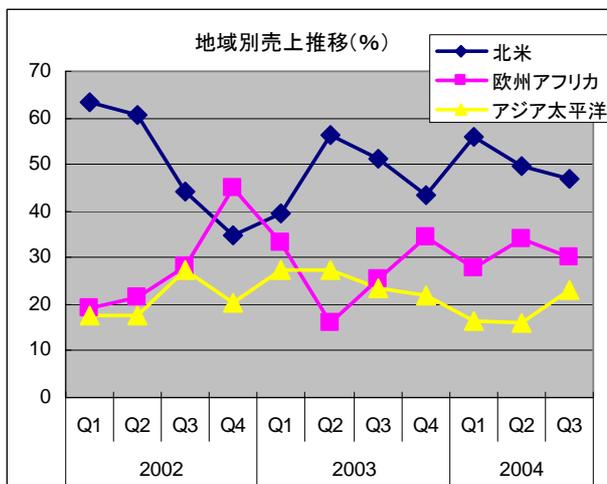
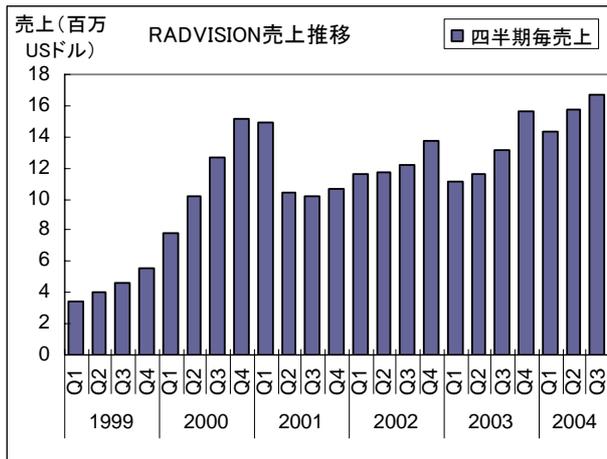
業績発表第三四半期(7月-9月)

テレビ会議関連

■ラドビジョン

イスラエルのラドビジョン社の第三四半期は、1999年

第一四半期からみても過去最高の売上を記録した。中国のVisioNex Technologies社の買収費用を含めた純利益は、140万USD(約1億4600万円)。会社としての借り入れはなく、キャッシュフローもプラスで推移し、1億540万USD(約160億円)。売上の10%程度は米シスコとの取引によるもの。しかし、ノンシスコビジネス関連が伸びているという。



地域別売上(上グラフ)では、北米が47%、欧州中東アフリカ(EMEA)が30%、アジア太平洋地域では、23%。

同社の事業は、技術ライセンスを中心としたTBU部門と、MCU製品などの販売を中心としたNBU部門となっているが、NBU部門では、アジア、特に中国の成長が強い結果となった。NBU部門の売上は全体の68%。TBU部門の売上は、SIP関連で前年同四半期から比較して66%の強い成長を見せた。

3G携帯テレビ電話との連携関係のソリューションビジネ

スが拡大(プロジェクトベースで10件以上の案件が動いているという)、ソニーとの協業関係強化などをグローバルに進めていく。

■VCON



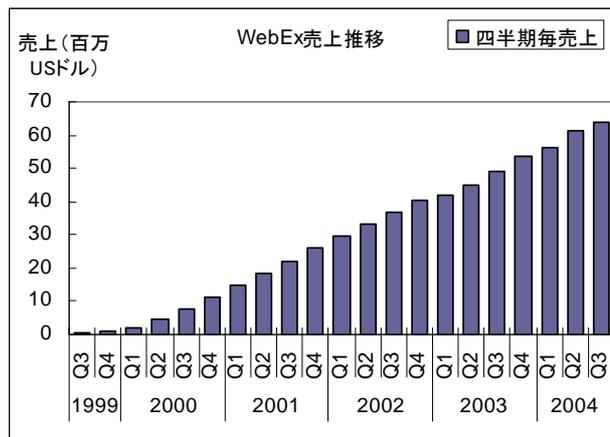
イスラエルのテレビ会議メーカーVCON 社の 2004 年第三四半期の売上は、400 万 USD(約4億 1700 万円)で、前年同四半期に比べ 16%、第一四半期に比べ 7%の減となった。しかし、同社では、今第三四半期については期待通りではなかったが、チャレンジングな環境ではあるがその中でマーケットシェアを伸ばすため全社的にリソースを傾注している段階とコメントを出している。

ウェブ会議関連

■WebEx

ウェブ会議サービスを提供する米 WebEx 社の 2004 年第三四半期の売上は、設立以来の記録を続けており、6400 万 USD(約 66 億 8000 万円)の売上を記録した。前年同四半期に比べ 31%の増で、当四半期の純利益は、1180 万 USD(約 12 億 3000 万円)。現預金残高は、300 万 USD(約 3 億 1200 万円)第二四半期から増えて 1 億 6500 万 USD(約 172 億円)となった。

同社では、売上のガイダンス予想を発表しているが、第四四半期は、6550 万 USD(約 68 億 3000 万円)から 6750 万 USD(約 70 億 4000 万円)の売上を、2004 年通年で 2 億 4700 万 USD(約 257 億円)から 2 億 4900 万 USD(約 260 億円)を予想している。



■Centra



ウェブ会議システムやサービスを提供する米 Centra 社の第三四半期売上は、970 万 USD(約 10 億 1200 万円)。前四半期から5%売上増。現預金残高は、2660 万 USD(約 27 億 7000 万円)。

ソフトウェアライセンス関係の収入が全体の 29%、サービスによるものが 28%、メンテナンスやプロフェッショナルサービス関連が 43%。

今四半期は、32 社が Centra を導入。その中に日本の銀行系も含まれる。全世界で 1200 社以上、日本国内では 80 社以上が Centra を導入している。

編集後記

今年もあと1号を残すのみとなりました。次号では米 Compunetix 社副社長兼コミュニケーションシステム事業部事業部長 Gerard A. Pompa 氏のインタビューを予定しています。風邪を再発してしまいました。苦しい〜！

CNA リポート・ジャパン
 編集長 橋本 啓介 k@cna.jp (CNA リポート・ジャパン)
 Vol 6. No.20 2004 年 12 月 15 日号(終わり)次号 Vol 6. No.21 は、2004 年 12 月 28 日の発行を予定しております。